

「アトラス」のふしぎな手術

▽泌尿器科先進的治療あれこれーロボット手術と放射線体内埋め込み治療を中心にー

「人にやさしい医療」とはどんな医療でしょうか。治療の評価項目として、従来は生存率や根治率といった治療そのものの成功率が最重要とされてきました。しかし近年は、いかに楽に、また、いかに患者さまの要望に応じた治療ができるかも大きな評価項目となっています。後者は生活の質（quality of life、QOL）評価とも呼ばれます。つまり、人にやさしい医療」とは、いかに治療するかを熟慮した治療ということができます。今回、泌尿器科癌、特に前立腺癌を通し、われわれが行っている「人にやさしい先進的治療」を考えてみたいと思います。

第1は「ロボット手術」です。使用している手術ロボットは「d Vinci S」

人にやさしい先進的医療

9日、鳥取と琴浦で

込まれています。

次は、「放射線体内埋め込み治療（小線源治療）」です。前立腺内に、50～100個のヨウ素125線源を最適配置し、腫瘍を消滅させるという方法です。最大の特徴は、3時間程度の治療で手術に匹敵する効果が得られることです。鳥取県内で本機器が設置されている施設は本院のみです。これら先進的技術により、全国トップクラスの「人にやさしい前立腺癌治療」を推進していきたいと思えます。

武中 篤（鳥取大学器官制御外科学講座腎泌尿器学分野教授）

◇サイエンスアカデミー「われわれが行っている泌尿器科先進的治療あれこれーロボット手術と放射線体内埋め込み治療を中心にー」は9日午前10時半から、鳥取県立図書館2階大研修室（鳥取市尚徳町）で。琴浦町図書館（琴浦町徳万）で鳥取会場よりライブ中継。申し込み不要。問い合わせは電話0857（31）6777、鳥取大学産学・地域連携推進機構（社会貢献室）へ。

7自由度を有する多関節鉗子、フィンガーチップによる容易な遠隔操作により、従来法とは比較にならないほど繊細、かつ正確な手術操作が可能となりました。この結果、腫瘍制御はもとより、早期の社会復帰、性功能回復、排尿機能回復などが見